

●水環境・河川・流域(2) (1-A-10-4~1-A-12-1)

本セッションでは、詳細な実測に基づいた溪流河川の窒素飽和に関する報告 2 編、統計データを用いた河川水質の変動傾向に関する報告 2 編、産総研―水系暴露モデルに関する報告 1 編、河川水質保全に関する報告が 1 編であった。

1-A-10-4 と 1-A-11-1 は、利根川上流域の窒素飽和に関して、長期間かつ詳細なモニタリングによって解析しており、莫大なデータを用いた解析は賞賛に値する。

1-A-10-5 は、冬季の一の倉沢まで足を運んでおり、このような貴重な試料からのデータは、今後の溪流水の水質の解析に大いに役立つであろう。

1-A-11-2 と 1-A-11-3 は、河川の水質データベースを用いてその長期変動と流況変化による水質予測を行ったものである。前者は、長期間の膨大な水質データベースから各水質項目経年変化について記述しており、貴重なデータベース活用法の例示であろう。後者は、水質データベースを用いて水道原水の変動を明らかにし、将来の気候変動によって水道原水の利用価値の低下について記述している。ただし、水質データの測定地点と流量データの観測地点がかなり離れている等問題点もあり、データベースを用いた解析については慎重なデータの取り扱いが必要であろう。

1-A-11-4 は、最近、報告例の多い産総研の水系暴露モデルについてであるが、このモデルの過去の発表（重金属や化学物質等）に比較して、今回の発表はかなり専門的知識を必要とするため、本モデルが水環境にどのように利用できるか等の具体的な話を盛り込んでいただけると活発な議論が期待できるのではなかろうか。

1-A-12-1 は、人間にとって健全な河川とはどのような河川であろうかということを念頭に置いた河川の有機汚濁についての報告であったが、行政や環境教育等に役立つ研究であり、今後の発展に期待したい。

(滋賀県立大学・環科 永淵 修)